



EBPMの推進に関する 研究について

(Evidence-Based Policy Making)

【新宿自治創造研究所】

令和5年3月18日

本日の報告内容

- ① 令和3年度の調査・研究内容
- ② 実務的な検証と分析
- ③ アンケート調査
- ④ 今後の展開の可能性

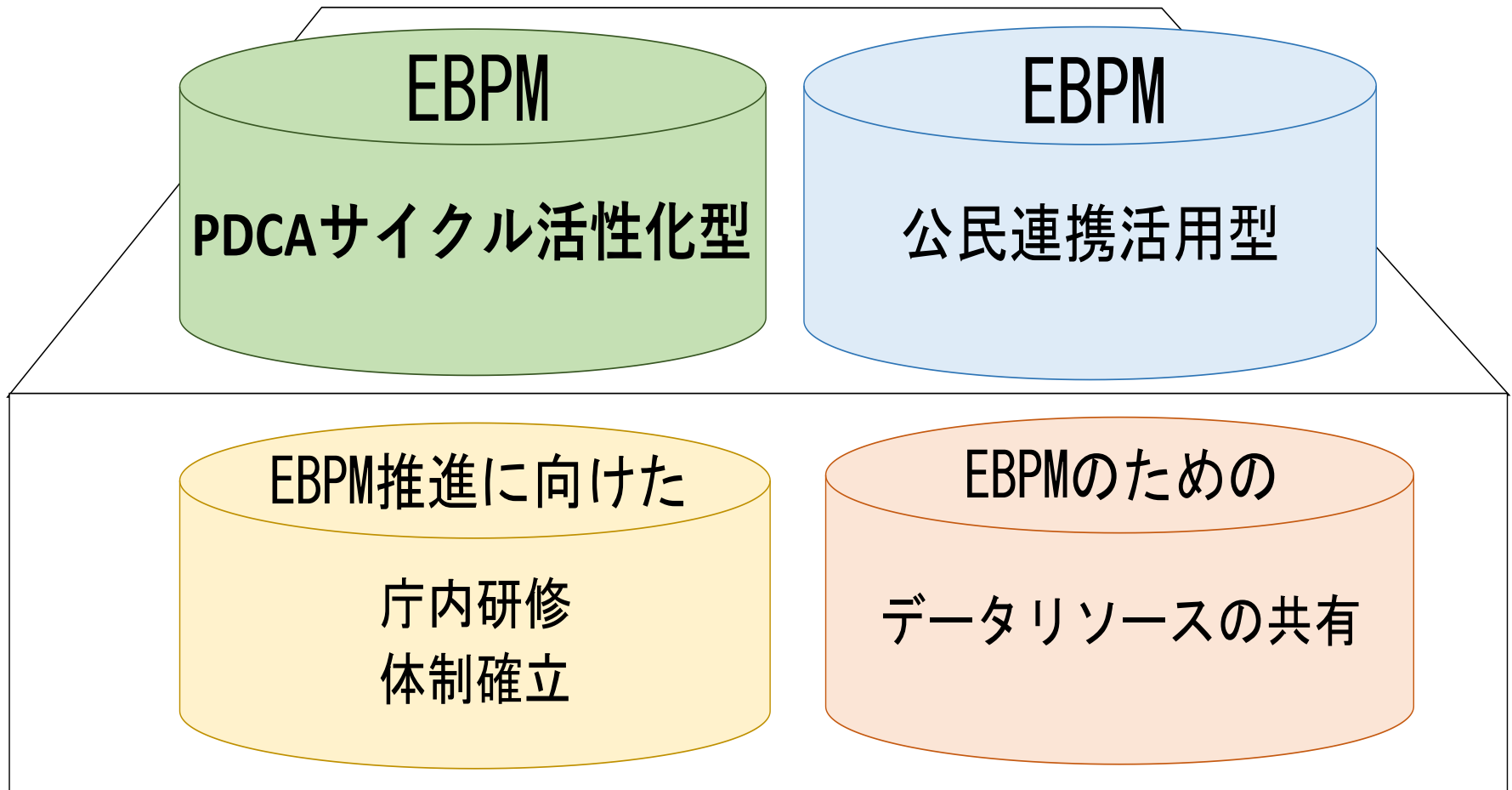
新宿区におけるEBPMの定義

- ◆ EBPMの必要性やエビデンスの意味
- ◆ 国や自治体、有識者等におけるEBPMの定義の事例や考え方
- ◆ 定義に組み込まれている本質や要素

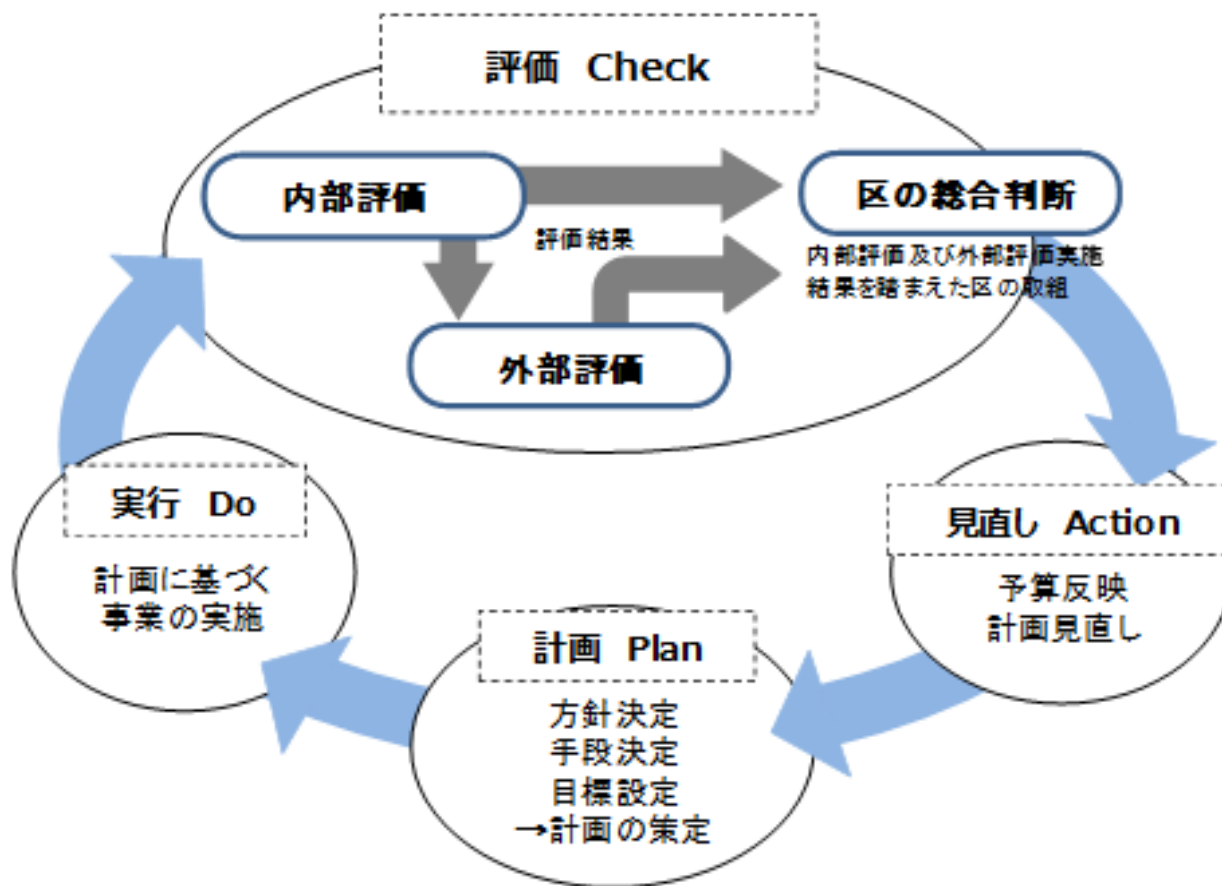


政策づくりにおいて、政策の根拠と目的を明確化し、政策の手段と効果のつながりについて、できる限り客観的に検証等を行うことで、その検証結果を政策の立案や改善につなげていくこと

新宿区において推進が期待されるEBPM



新宿区の行政評価制度



PDCAサイクルとは、Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(見直し)の一連の流れを繰り返し行うことで、業務を継続的に改善していくためのマネジメント・サイクルのことをいいます。

出典：新宿区総合政策部企画政策課『令和3年度 内部評価及び外部評価実施結果を踏まえた区の実組について』, 2022, p.1から引用

② 実務的な検証と分析

EBPMの適用と実装化に向けた実務的な検証と分析 図書館事業(図書館サービスの充実)

新宿区立中央図書館内に設置されたプロジェクトチームと連携・協力

文献調査

ロジック
モデル

評価方法
の改善

図書館統計
に基づく分析

ベンチ
マーク分析

評価指標

ロジックモデルとは、政策における目的と行政の活動との結びつきが分かりやすく図に示し、可視化するツールのことをいいます。

② 実務的な検証と分析

EBPMの適用と実装化に向けた実務的な検証と分析 図書館事業(図書館サービスの充実)

3E評価の表示形式例

コスト (全体の費用・財源)	インプット (投入資源・生産要素)	アクティビティ (活動)	アウトプット (活動による産出物)	アウトカム (成果)
コスト指標	インプット指標	アクティビティ指標	アウトプット指標	アウトカム指標
経済性(Economy) $\text{インプット指標} \div \text{コスト指標}$ 最小のコストで事業に投入した資源(生産要素)を得ること	効率性(Efficiency) $\text{アウトプット指標} \div \text{インプット指標}$ ある部署(部課)に投入された資源から活動による最大の産出物を得ること		有効性(Effectiveness) $\text{アウトカム指標} \div \text{アウトプット指標}$ 活動による産出物によって期待された成果を達成すること	
事業全体の費用対効果				
$\text{アウトカム指標} \div \text{コスト指標}$				

3E評価とは、3E監査(公会計監査における①経済性(Economy)、②効率性(Efficiency)、③有効性(Effectiveness)の3つの視点を重視した手法)の考え方を行政評価に適用したものをいいます。

コストは、総(全体)のコストであり、ヒト・モノ・カネ以外のもの(事業執行における職員の負担感や定性的な情報など)も含まれる広義的な意味のコストのことをいいます。

インプットは、個別的なコストであり、ヒト・モノ・カネといった直接的な投入(個別)資源や生産要素である狭義的な意味のコストのことをいいます。

② 実務的な検証と分析

EBPMの適用と実装化に向けた実務的な検証と分析 図書館事業(図書館サービスの充実)

費用対効果とその分解(経済性・効率性・有効性)

$$\frac{\text{効果}}{\text{費用}} = \frac{\text{アウトカム指標}}{\text{コスト指標}} = \frac{\text{インプット指標}}{\text{コスト指標}} \times \frac{\text{アウトプット指標}}{\text{インプット指標}} \times \frac{\text{アウトカム指標}}{\text{アウトプット指標}}$$

第1項 (経済性) 第2項 (効率性) 第3項 (有効性)

② 実務的な検証と分析

EBPMの適用と実装化に向けた実務的な検証と分析 図書館事業(図書館サービスの充実)

費用対効果とその分解(経済性・効率性・有効性)

新宿自治創造研究所が独自で設計したモデルケース

効果	アウトカム指標 「貸出点数」	インプット指標 「総資料費」	アウトプット指標 「蔵書総数」	アウトカム指標 「貸出点数」
費用	コスト指標 「図書館費」	コスト指標 「図書館費」	インプット指標 「総資料費」	アウトプット指標 「蔵書総数」
		第1項 (経済性)	第2項 (効率性)	第3項 (有効性)

各指標における数値データについては、以下2点を利用しています。

・公益財団法人 日本図書館協会『日本の図書館-統計と名簿2021』, 2022

・東京都立図書館『令和3年度東京都公立図書館調査(総括表)』, 2021

1) コスト指標の図書館費は、資料費、賃金・報酬、講師謝礼、その他図書館費(委託費、指定管理費など)、臨時的経費を合計したものである。なお、人件費(常勤職員の給与・諸手当、専任や兼任職員の給与・諸手当)は含まれていない。(令和3(2021)年度の数値)

2) インプット指標の総資料費は、図書費、雑誌・新聞費、視聴覚資料費、その他の資料費を合計したものである。(令和3(2021)年度の数値)

3) アウトプット指標の蔵書総数は、令和3(2021)年3月31日現在、図書館で所蔵する図書の総冊数である(雑誌、視聴覚資料等、録音図書、電子的資料は含まれていない)。

② 実務的な検証と分析

EBPMの適用と実装化に向けた実務的な検証と分析 図書館事業(図書館サービスの充実)

新宿自治創造研究所が独自で設計したモデルケースによる分析結果

(新宿区立図書館(令和3(2021)年度)の統計数値に基づき作成)

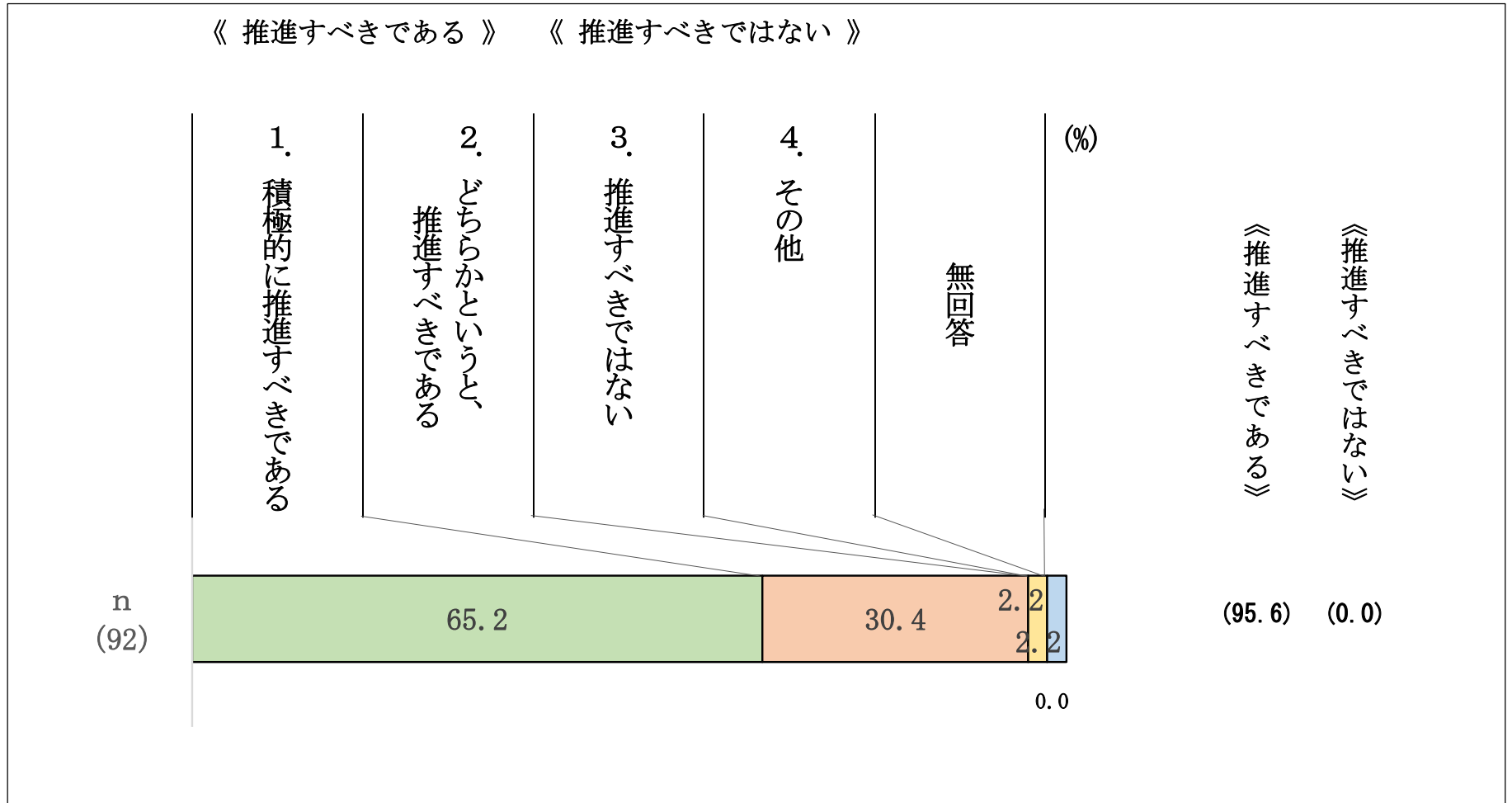
コスト指標 (全体の費用・財源)	インプット指標 (投入資源・生産要素)	アウトプット指標 (活動による産出物)	アウトカム指標 (成果)
図書館費 1,107 百万円	総資料費 146 百万円	蔵書総数 1,051 千点	貸出点数 2,274 千点
経済性 (インプット指標÷コスト指標)	効率性 (アウトプット指標÷インプット指標)	有効性 (アウトカム指標÷アウトプット指標)	
0.132(%)=146÷1,107	7.20(点/千円)=1,051÷146	2.16(回)=2,274÷1,051	
図書館事業「全体」の費用対効果 「貸出点数÷図書館費」			
2.05(点/千円)=2,274 千点÷1,107 百万円 特別区 23 区内 順位 13 位			

【モデルの設計(前提条件)】

- ・3E評価の考え方にに基づき、できる限り単純な設計を試みています。
- ・コスト指標＝インプット指標＝アウトプット指標＝アウトカム指標の4段階の概念的な枠組みにより、事業全体を分析することができるよう大幅に簡素化しています。
- ・3E評価の考え方にに基づき大幅に簡素化したモデル設計に、評価指標と数値データを単純に落とし込んでいるため、評価指標の分析結果から不明確な部分が残っていることに留意する。
- ・総資料費は、令和3(2021)年度の数値であり、蔵書総数は、令和3年3月31日現在の数値である。

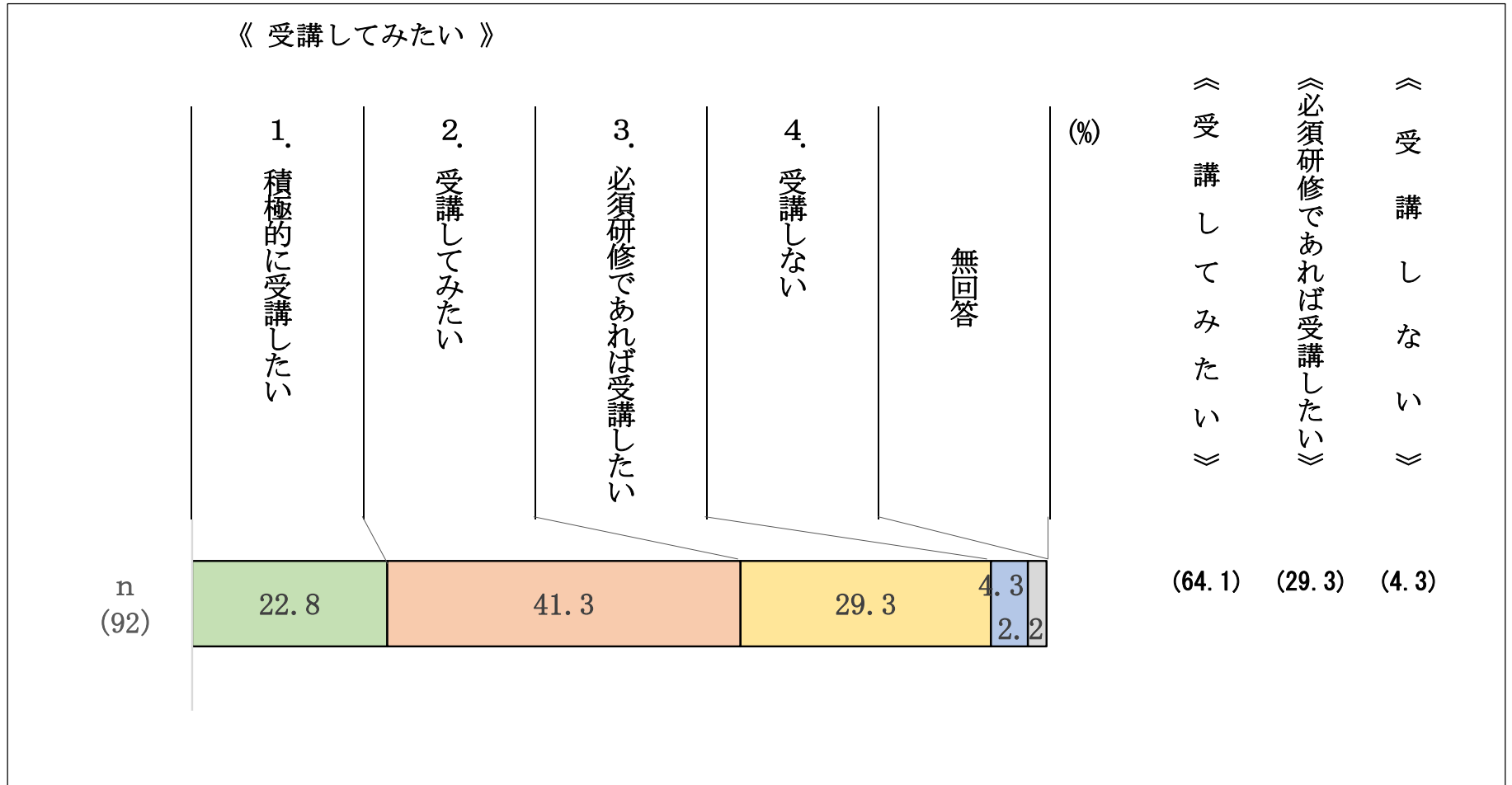
新宿区職員向けアンケートの調査結果

EBPMを推進することについての意識



新宿区職員向けアンケートの調査結果

データの利活用と実務に生かせる研修への参加意識



新宿区におけるEBPMの推進

令和3(2021)年度

EBPMの定義

EBPMの理論・手法

EBPMへ至る経緯と現状

(先進自治体の事例)

EBPMの推進に向けて

新宿区におけるEBPM

基礎的な研究

令和4(2022)年度

EBPMの事例研究
(適用と実装化に向けた研究)

アンケート調査

実務的な検証と分析

EBPMの推進に向けた今後の
展開の可能性と方向性

実務的な研究